日本共産党
あなたにお届け!
区議会議員 島田 拓 ニュース

島田たく配便

No.47　2018年11・12月号
区議団控室　TEL5984-1014
HP　http://www.shimada-taku.com/

自民、公明などの反対で否決
給食費負担軽減を条例提案

共産党区議団は、今議会で給食費の負担軽減の条例提案を行いました。そして、条例案を成立させるためにすべての会派に共同提案と条例案への賛同を求めましたが、残念ながら自民、公明に加え、立憲、国民、維新の反対で否決されました。

今回の条例案は、区立小中学校と都立特別支援学校の小・中学部を対象に月1,000円の負担軽減を行うものです。そのために必要な財源は4.2億円。練馬区は2016年度に76億円、2017年度には85億円の予算を使い残しており、予算の使い方をやりくりすれば実現は十分可能です。

しかし、自公、国民などは「財源が不明確」「選挙向けのパフォーマンス」など本質から外れた質疑に終始しました。

無償化へ向けての第一歩

憲法では普通教育（義務教育）は無償とされています。ところが実態は小学校で年間10万円、中学校で18万円もの費用負担が発生します。給食費はその約4割を占め、練馬の場合、平均月4,804～5,550円の負担となっています。

教育の無償化は本来であれば国の責任ですが、自治体から無償化を進めていくことが国を動かす大きな力になるのではないでしょうか。教育全体の無償化にむけてひきつづき取り組んでいきます。

光が丘駅にEV設置を都に要請
下りEL設置は都とURが協議中

今年7月に住民のみなさんと一緒に東京都交通局に要請を行いました。要請の中身は光が丘駅の2つ目のエレベーターと下りエスカレーターの設置、駅南側にあるA5出口のさらなるバリアフリー化と聴覚障害者向けの音声誘導装置の改善・増設などです。実際、共産党区議団が行った区民アンケートでも光が丘駅におけるエレベーターやエスカレーターの設置を求める声が沢山寄せられています。

これに対し東京都は9月頃にとや都議を通じて設置について回答をしてきました。それは音声誘導装置の一部改善以外はゼロ回答というものでした。エレベーターを設置しないことについて都は、複数の路線が乗り入れている乗換駅を優先して実施すると従来の回答を繰り返しました。しかし、光が丘駅の利用者は乗換駅である飯田橋駅や代々木駅よりも多く、光が丘駅が乗換駅でなくても必要な所には早急に設置すべきです。

なお11月に練馬区とＵＲに要請を行い、その中で区とＵＲがA5出入口付近の2から1階までの下りエスカレーターの設置について協議を行っていることが明らかとなりました。ＵＲは単独では設置しないという態度ですが、区とも連携し、早期にエスカレーターが設置されるよう求めていきます。